

【都市と美術研究所】2022年7月19日（火）研究会 発表要旨

広島県立美術館の成り立ちと機能

Origin and Functions of the Hiroshima Prefectural Art Museum

森万由子(広島県立美術館学芸員)

MORI Mayuko

Curator of Hiroshima Prefectural Art Museum

広島県立美術館は、広島市の商業エリアの中心である八丁堀交差点から徒歩約10分、広島駅からも徒歩約12分でアクセス可能な、都市の中心部に位置する美術館である。「名勝縮景園」に隣接し、県の施設として一体的な運営が行われている。

旧広島藩主、浅野家の大名庭園である縮景園の一角には、かつて同家伝来の古美術品を展示する私立美術館「観古館」が存在した。しかし、原爆投下により同館は焼失。一方で、戦前に美術家たちの作品発表の場であった旧広島県産業奨励館、現在の原爆ドームに代わる新たな美術館建設を求める声が高まった。こうした背景から、同館は1968（昭和43）年、中国地方初の公立美術館として開館した。1996（平成8）年には全面リニューアルを行い、庭園と美術を同時に楽しめる「都会の中の憩いの空間」となることを目指して、活動を続けている。

「広島県ゆかりの美術作品」「日本とアジアの工芸作品」「1920～30年代の美術作品」の3つの収集方針に基づき集められた所蔵作品は、現在5000点を超える。そのコレクションを活かした特別展、所蔵作品展を軸としながら、夏休みのファミリー層をターゲットとしたマンガやアニメの特別展など、従来の美術の枠を超えた幅広いジャンルの展覧会を開催している。その他、「シャッターアート・ミュージアム」への参画や「ひろしまナイトミュージアム」の実施など、都市の中での魅力・認知度向上に向けた最新の取り組みを含め、当館の活動の一端をご紹介します。

略歴

1993年和歌山県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。2017年より現職。専門は、フランス近代美術史。主な論文に、「モーリス・ドニ作《バックス祭》にみる家族の肖像とキリスト教主題」（『WASEDA RILAS JOURNAL』第5号、早稲田大学総合人文科学研究センター、2017年、pp.281-291）など。